法人理念

輝いて明日へ

誰にも優しい 地域社会をつくります

2023. 9. 29

社会福祉法人 ボワ・すみれ福祉会 理事長 田部井 眞

総合的な福祉人材センターについて考える

高齢、障がい、保育、その他福祉領域で働く人に関する総合的な福祉人材センターが必要ではないかと考えています。

なぜ、そのように考えたのか。

- ①少子化でいずれ保育園・幼稚園の統廃合が始まった時に(すでに始まりつつあります)町田市内で働いている保育士さんを他の種別の福祉領域で働けるようにリスキリングする仕組みを担う。
- ②市内の福祉事業所で様々な理由で退職した職員の方が市外に出て行ってしまうのではなく、市内で転職できる仕組みを担う。
- ③他業種からの転職がスムーズに進むように、例えば職場体験プログラムの実施、福祉職になるためのスクールの開校により福祉職を確保する取り組みを行う。
- ④市内の(市外でも良いのですが)高校生・大学生を対象とした夏休み職場体験プログラムの実施を 通じて福祉の仕事の理解促進を図る取り組みを行う。
- ⑤福祉事業所に特化したボランティア(サポーター)の窓口業務を担う。

その他にも考えられることはあると思います。

市内の福祉職場の人材確保に短期的・中期的に役割を担ってくれる人材センターが必要だと考えています。

市内の社会福法人と行政と社会福祉協議会が力を合わせることで実現していかないと労働人口が減少 していく中で福祉の現場を維持していくことが難しくなってしまいます。

余暇活動について考える

余暇活動は障がいのあるなしに関わらず多岐にわたります。

自ら余暇活動の場所に行けるのであれば、比較的自立した余暇活動を行なうことはできます。しかし、障がいの状況が重くなればなるほど、多くの支援が必要となることは想像できます。健常者を対象とした余暇活動はビジネスとして成立していればお金を払えば参加可能です。障がいのある方の場合お金があっても、参加を前提としてビジネスが組み立てられていないため受け入れが難しいでしょう。少しの支援で参加できるものであれば参加の可能性はあると思います。

現在の社会構造であれば、やはり、障がいの特性を理解している、社会福祉法人、NPO や行政が実施をしていかない限り余暇活動を保障していくことはできないと思います。

生活における余暇活動の重要性は、説明するまでもないと思います。しかし、障がい者を取り巻く環境は、余暇活動を保障するまでに至っていません。少ない社会資源であれば参加の基準など平等性に配慮する必要があります。

少し視点をずらしてみると、生活介護事業所の不足やグループホームに重度者が受け入れにくい現状も同時に課題としてあります。余暇活動どころではないとの議論にもなってしまいます。だから余暇活動は後回しということではないと思います。

市内の各事業所でも事業計画で余暇活動が計画実行され、一定程度の保障はされていると思います。 施設の行事としての余暇活動とは別に本人の希望に寄り添った個別性の高い内容での余暇活動の保障が できないものかと考えています。

例えば、休みの日の施設を活用して、親の送迎を前提として少人数でゆっくり自分なりの時間を家族から離れて過ごす。自分の時間を過ごす。家ではない場所で。人手や経費は大きくかからない方法だと思います。できる所から取り組み実践を積み重ねていくことが必要です。何もアクティビティが必ず必要ということでもないですね。親御さんのレスパイト的なことにもなる効果もあります。

広報配信用 メールアドレスの登録について

ボワ・すみれ福祉会広報配信用メールアドレスの登録について

ペーパーレス化、郵送料の削減のためご協力いただける方に広報をメール配信にてお届けさせていた だきます。下記のフォームからメールアドレスの登録をお願いいたします。

なお、広報が発行されるとメールに閲覧用の URL(ボワ・すみれ福祉会ホームページ) ヹ゚協力くだざい を送信いたします。クリックし、発行月の広報をご覧ください。過去の広報も掲載し ています。

URL:https://forms.gle/svtrzPZCTuApvgJg8

生活介護 花の家

「ホースセラピー」

夏休みが始まったばかりの 7/27(木)の夕方に、「ぐるんぱ放課後クラブ」 の近くにある「並木なかよし公園」にて並木町内会共催の下、近所の子供や その家族たちを招いた乗馬体験が行われました。

今回も御殿場から2匹の馬がやってきました。参加する子どもたちは臆す ることなく颯爽と馬に跨って、揺れを楽しんだり手綱から手を離すなどして 楽しそうでした。

その後は餌やりをしたり、顔や背中を触るなどして子どもたちからは「かわ いい」や「カッコいい」などの声が上がって、会場はとても盛り上がってい ました。

乗馬体験が終わった後は、花の家のかき氷や焼きそばなどを食べて夏休みを 満喫されていました。 (宮本 翔)





「人権擁護・虐待防止研修」を受講して」

時折、耳を疑うような障がいのある人への虐待報道が聞かれる中、国では頻繁に「虐待防止の対応の手 引き」を改訂し、東京都では事業者に対し「人権擁護・虐待防止研修」の受講を義務付ける等、色々な手 立てを講ずる等して障がいのある人への虐待防止に努めています。

花の家では上記の義務化された研修以外にも、毎年、人権擁護に関連する研修会を様々な形で開催し ていますが、今年度はコロナ禍明けの3年ぶりに外部講師を招聘した集合研修を計画いたしました。講 師にお呼びした綿先生は、日本福祉大学で教鞭を執られるほか、20以上ある福祉サービス事業を経営 する社会福祉法人睦月会の理事長をされる等、様々なお立場から障がいのある人の支援を行っている方 であり、幅広い観点から人権についてお話を伺えるのではないかと考えた次第でした。

綿先生からご提示があった研修表題(副題)が「日々の支援を振り返り、支援の合理的配慮を考える」 でした。自分たちの日々の支援における「ちょっとおかしい」を共有し合うグループワーク等を含め、大 変内容の濃い、学ぶことの多いご講義でしたが、私が一番印象に残ったのが支援の「グレーゾーン」に関 する内容でした。

福祉業界では、(当事者にせよ、支援者にせよ)人の行為の全てにおいて「白黒」「良し悪し」が付けら れる訳ではなく、どちらかというとグレーゾーンはあって当たり前のものとして受け止めているか、気 にしてもそのグレーの濃淡だったりするのではないかと思っていました。

しかし、先生が仰ったのは、「支援にグレーはない」、「あるのは白か黒である」と。その意味は、支援 においてどんなに悩むことがあっても、最終的には「白/黒」、「良し/悪し」を判断して「やる/やらな い」を決めるのであるということでした。

言い方を変えれば、行為にきちんと責任を持つということであり、判断 が保留のまま行為しない、「正しいと言えないけど、やってしまう」こと がないようにということです。そして、その際、「その行為の合理性」を もって判断することが大切であるとのことでした。

「的を射た」という表現がありますが、ともすると悩みながら行為をし てしまうこともある私としては、的の真ん中にズバッと太い矢を突き立て られた思いで、心の中で一言「参りました」とつぶやいていました。 綿先生、お忙しい中、ありがとうございました。(畠山史郎)



計画相談支援かけはし

• & f \ # # • & f \ # # • & f \ # # • & f

かけはしコラム「相談支援とデジタル技術」

4月号の花の家欄において、今年度新たに設置したICT委員会のご報告をいたしました。福祉業界ではまだ高齢者福祉領域が中心になっていますが、デジタル技術を使った科学的介護が国の主導で進められつつあります。当法人でも事業所間の通信網や事業所内の情報管理、支援機器等において、デジタル技術の活用が始まっています。

デジタル技術の活用は時代の趨勢と思いますが、以前のかけはしのコラムにおいて「身体介護においては機器やデジタル技術が導入されることがあっても、相談支援に関しては最後まで人が関わることになるのではないか」と書いたことがありました。

相談支援では当事者の方と出会い、話を伺う中で悩み事や不安に思っていること、将来への夢や生活上の要望等を聞き取っていきます。相談員は当事者が仰った言葉がどのような背景や想いを持って語られているか、当事者の生活や考え方等を思い描いた上で、その意味や内容を正確に把握するように努めます。しかし、果たして当事者の想いのままを受け止められているか、またその後計画に起こす際にその想いを正確な言葉で文字化できるかというのは、相談業務として要諦であり、大変難しい作業なのです。

上述したように相談支援談に関するこれらの業務や作業について、少し前までは「人が関わるべきもの」、「人だからこそできること」と思っていたのですが、最近何人かの関係者と話す中で、近年話題の<チャットGPT>のような生成AIを活用して、当事者から聞き取った内容を文字化したり、具体的な支援方針を立案する時に、生成AIが導き出す答えを一つのモデルやアイディアとして参考にできないかと考えるようになりました。

と申すのが、福祉業界では深刻な人手不足に陥っており、良い人材がいれば複数の事業所で引っ張りっこしている状態です。また、福祉制度を初め、色々なことが短期間で目まぐるしく変わることが多くなっている中、一つの業務に長く勤めさせ、時間をかけて職員を育成することが難しくなっています。昔であれば先輩の後姿を見ながら業務の中で仕事の仕方を覚えたものですが、最近はそのような環境ではありません。今時マニュアルが欠かせないのもそういった事情が一つの要因になっているのでは -- **-

ないでしょうか。同じように、経験の不足や欠如を生成AI等のような膨大なデータで補って対応することもまんざら悪いことではないように思った次第です。みなさんは、どうお考えになるでしょうか? (畠山 史郎)

就労継続支援B型 クッカ広場

クッカ広場では年に数回リサイクル商品全品対象の半額セールを開催しています。

掘り出し物が半額でかえる!多くのお客様が心待ちにされています。現在、事前の告知はしていません が毎回好評いただいています。

半額セールの後は店舗内をリニューアルします。クッカ広場では「どんでん」と呼んでいますが半額セール最終日の翌日を臨時休業して一日かけて商品の総入れ替えをします。「どんでん」ってなに?と聞かれることがあります。「どんでん」とは歌舞伎用語で大道具を使って大掛かりな場面転換をする「どんでん返し」になぞらえて呼んでいます。「どんでん」後のオープン日には開店前からお客様が並びどんな商品があるか楽しみにされています。次回半額セール開催日は未定ですが、その他にも様々なお楽しみ企画を気まぐれに開催しています。クッカ広場に足を運んでいただければお楽しみがあるかもしれません。ご来店をお待ちしています。

~リサイクル品大募集~

ご家庭で不要になりました「衣類・食器・贈答品・小物雑貨など」がございましたらクッカ広場にご提供ください。クッカ広場店舗内にて受付しています。お持ちいただいた物の状態によりお受けできない物もありますので不明な点や取扱品の詳細はクッカ広場までお問い合わせください。(大高 星子)



ご利用者の力をより発揮できる支援者になるために♡

8月25日、正規職員対象の研修を行いました。講師は長年特別支援学校の教員をされていた「一般社団法人障害児・者 QOL サポートラボ CIAO (ちゃお)」代表の田中顕一先生です。『重度重複障害のある方の支援と活動プログラムの考え方』として、通所施設は人生・生活を彩る場所であり、心身の健康をベースに、ご利用者が日々やりがい・生き甲斐を感じる支援をする大切さを学びました。

コロナ過の影響や職員体制等、作業や活動を制限せざるを得ない状況と考えがちですが、私たち支援者が、ご利用者の持っている力を伸ばそう、維持しようと思って支援し続ける事が求められます。目に見えたご利用者の力にとらわれず、潜在的な力の気づきができるよう、ご利用者の意思決定を尊重し、見通しが持て、合理的配慮のある作業・活動プログラムが企画できる力を養いたいと思います。

その手段の | つとして ICT 技術があります。ご利用者が、「今日は花の郷に来て楽しかった・頑張れた」等思って帰宅していただけるよう、今後は ICT 技術を含め、ご利用者の力がより発揮できる活動等検討していくために、立候補制で担当者を決めました。これからが楽しみです!! (関根 まき子)



新人職員挨拶

このたび、7月より入職いたしました白澤大樹と申します。

福祉施設への入職は初めてで、以前は一般企業の精密機械関連の業界に約20年間従事しておりました。簡単な私の自己紹介ですが趣味は、週末は料理をしたり(ほぼレシピ本とにらめっこをしながらの調理ですが・・・)同様に週末は一人息子を連れてドライブへ出かけたり(息子が喜ぶので、主に神奈川県内の某湖へ出かけ、遊覧船に乗って遊んでおります)ここ最近では、時間のある時に長年眠らせていたギターを復活させ家族に迷惑がかからない程度に・・・やかましくかき鳴らしております。

福祉の業界はゼロからの出発な事もあり、現在は色々と吸収、勉強している段階ではございますが、日々すべて新しいことの連続で充実しております。

まだまだ不慣れな点が多々あり、何かと皆様にはご迷惑をおかけいたしますがご利用者 を心から支えられ、また安心・安楽を感じられる職員を目指し精進してまいりたいと思 います、何卒よろしくお願いいたします。





花の郷祭り開催



10月28日(土) | 0時30分~ | 4時30分、花の郷祭りを開催いたします!!是非、お越しください(^^♪



ボワ・アルモニー



ボワ・アルモニーの行事について





新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症に移行したことにより アルモニーでは、日帰りレクリエーションやミニアルモニー祭りを行なう 事になりました。

生活介護レクリエーションでは、7月20日ダリア園へブルーベリー狩り に行きました。

ブルーベリーは紫・赤紫・緑があり、紫だけ取って食べる事が出来ますが、 皆様ご自身できちんと色を見極めて取る事が出来ていました。取ってその場 で食べたり、みんなで集まって食べたりしました。

| 時間弱でしたが、入れ物をいっぱいまで取る事が出来、食べきれなかった分は各自持ち帰りました。

とても甘くておいしかったです。ご利用者も大変喜んでいました。





ミニアルモニー祭りは、9月23日土曜日の午前中に行なう予定です。 いろいろなゲームや食べ物を用意し、少しでもご利用者に楽しんでもら えるように装飾などにもこだわっています。

また、普段のレクリエーションで行なっている。ダンスも披露して頂きます。



日帰りレクリエーションは、11月17日金曜日に行く予定です。

候補に煉瓦堂とんぼ・羽村市動物公園と伊豆フルーツパーク・三島スカイウォークの2プランから選んで頂き、伊豆フルーツパーク・三島スカイウォークのプランに決定いたしました。

3年ぶりの日帰りレクリエーションという事もあり、ご利用者の皆様大変楽しそうに迷いながら選んでいました。 (木村 一太)







ポワ。 コンサール

ウムへ出かけ、 さらに、 く手で摘み、 ルーベリーを見つけると、一粒ずつ優し ーベリー摘みを楽しみました。熟したブ しました 夏休み期間中のコンサールでは、ブル 相模原市立博物館のプラネタリ パックに入れていました。 涼しい室内で星空を堪能

を見ながら遊ぶことができました。 杉公園へ出かけました。噴水や水の流れ で涼しさを感じ、みんなとても良い表情 水遊びは、多摩市の鶴牧東公園や一本

たり、 ができました。 遊びを通じて楽しい時間を過ごすこと おいしいカレーを楽しく食べました。 に調理を楽しみました。昼食にみんなで 今年の夏も暑かったですが、色んな カレー作りも行い、真剣に野菜を切っ 鍋に材料を入れて混ぜたり、一緒 (宇野 敬



ボワ・フルール

そばを作ったり、 沢山しました。 いに行きました。 行って魚や昆虫を見たり、 今年のフル ールの夏休みも楽しい活動を 相模原にあるアクアリウムに 昼食のお弁当やおやつを買 お昼ごはんにやき

もいました。児童それぞれ水遊びを楽しんで ルに浸かって気持ち良さそうに過ごす児童 なってはしゃぐ児童もいれば、 いました。 鉄砲を使って撃ち合いをしたり、 水遊びは楽しみにしていた児童も多く、 のんびりプー ずぶ濡れに 水

たです。 子すくいゲームとアイスの射的を開催して オマケしてあげる場面もあり、 んな沢山取れていました。店員役の子が少し くうことが難しい子は職員と一緒に行い、 ってお菓子を頑張ってすくっていました。 います。 夏休み後半には夏祭りを行いました。 お菓子すくいゲームでは、 微笑ましかっ お玉を使 お菓 す

も頑張りましょう! 楽しかった夏休みの思い出を胸に、 (渡邉 2学期 千春)



ポワ・エール

を楽しみにしてくれていました。 び!」「お買い物行く?」とエールでの活動 旬から夏休みに入り、 にとっては待ちに待った夏休み。「水遊 期休暇の対応期間に入りました。 ルを利用している児童たちは7月下 合わせてエールも長 子供たち

う か。 組み。 ワソワ…。 業式!」「まだ宿題が…。」とみんな少しソ ラムを設定しました。ボワ・エールでのひ 利用できるように、週ごとに違ったプログ ルプル石鹼の制作。 組みました。花の家の園芸部門に手伝って う ! と夏の思い出は良い思い出となったでしょ のカレー作り。おやつのハロハロ作り。 いただいた多肉植物の寄せ植え体験。 エールでは今年の夏も色々な活動に取 夏休みも終盤になると「9 / ーは始 夏祭り。 2学期も楽しんでいきましょ 利用児童が楽しみを持って おやつのお買い物取り (上田 哲明) 昼食 プ ij









あかね夏レクリエーション

7月21日(金)、グループホームあかねでは「夏レクリエーション」を行いました。 夕食はミニお好み焼きやフランクフルト、たい焼きなどなど。そしてデザートはかき氷です。 あかねオリジナルのカルピス&黄桃ソースを、ご利用者ご自身がスプーンですくい、氷に かけて完成させます。こぼさないよう慎重にかける方、何度もすくってたっぷりかける方、 それぞれのやり方で楽しんでいらっしゃいました。食後には「お腹がいっぱいになったよ~」 と、弾んだ声が聞かれました。



夕食が終わると、外へ出ての花火大会です。花火に火が付くと歓声があがり、「きれいだね」と、見つめたり、「わたしもやる!」と、花火を手にしたりと、盛り上がっていました。

レクリエーションが終わった後も、みなさんには笑顔が見られ、楽しい夏の思い出として心に刻まれたようでした。 (山本 純)

新人職員挨拶

はじめまして。岸野美沙紀と申します。以前は高齢者施設に勤務していました。日々介護職として働く中で、次第に障がい者支援にも興味を抱くようになり、このたびボワ・すみれ福祉会の一員として働かせていただくこととなりました。とても嬉しく思っています。仕事を頑張るのはもちろんですが、ご利用者との関りなど、様々なことを楽しめたらなと思っています。

よろしくお願いいたします。

港 7.

ボワ・すみれ福祉会後援会



今年度の寄付金贈呈しました!

会員を募集しております

9月20日(水)、後援会会長櫻井から法人田部井理事長に、今年度の 寄付金50万円と社会貢献寄付金 | 0万円、合計60万円をお渡ししま した。

寄付金額は30万円から50万円に増額し、新たに社会貢献のための 寄付も行うことができました。

少しでも早く現場に届くよう、お渡しする時期を9月に前倒しすること もできました。



これもひとえに会員になってくださった皆様、後援会の販売品を購入してくださった皆様などなど、 皆様のご協力の賜物です。役員一同深く感謝しております。

コロナが2類から5類になったと言っても、重い基礎疾患をもつ利用者さんも多い事業所では、まだまだ油断できません。クラスターを防ぐために自宅待機となることもあります。5類になって、自宅待機に対する補償はなくなり、法人の経営は益々厳しさを増します。

その中でも通所を楽しみにしている利用者さん、そんな利用者さんを支えてくださる職員さんに、後援会は今後も寄り添い、全力で応援していきます。

今年度後半は、未来基金 I 0 0 万円の積み立てに向け、会員募集、販売活動を行っていきます。皆様にもより一層のご協力をどうぞよろしくお願いします。 (後援会 事務局)

栄養士のレシピ



ボワ・アルモニー 栄養士:宮城 真理亜

秋と言えばスポーツ、読書、旅行など楽しみがいっぱいです。でもやっぱりご利用者も職員も「食欲の 秋!」が大好き!スーパーでは年間を通して手に入る食材が豊富な時代ではありますが、やはり旬の食 材をたくさん使用したお料理は、「季節を感じられて新鮮でおいしい。」「その時期に体が必要とする栄養 素が多く含まれているものが多い。」「お安く買えてうれしい。」 などなど良いこといっぱいです。

人気メニューの第1位のカレーは、季節により夏野菜カレーや冬野菜カレー、本格インドカレーなど アレンジが無数にあり年間通して喜ばれています。ライスか、手作りのナンから選べるのも楽しみにし てくださっている方が多いです。

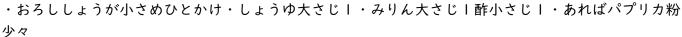
今回は、カレーにはかかせない簡単に作れる福神漬けレシピと、先日のランチでご好評いただいた、ナ スレシピをご紹介します。

【福神漬け】

〈材料〉(4食分)

お好みの野菜

(れんこん 100 g · なす l 本)



〈作り方〉

- 1. なすは小さめのいちょう切りにする。れんこんは水にさらしておく。
- 2. 小鍋にしょうゆ、みりん、酢、おろししょうが、野菜を入れ火つける。煮立ったら底から混ぜて、な すは柔らかく、れんこんはシャキシャキが残る程度で火を止める。パプリカ粉をお好みで入れると赤 くきれいな色に仕上がります。
- 3. 冷めたら出来上がり。カレーにたっぷり添えてください。 ※市販の福神漬けは苦手で食べられないご利用者も残さず食べてくれます。野菜はきゅうり、人参、 大根、ブロッコリーの芯など入れても美味しく出来ます。

【なすのはさみ揚げ】

〈材料〉(2食分)

- ・なす2本・人参 10g・キャベツ 80g・食塩 少々・ニラ 80g・にんにくお好み
- ・ひき肉 60g・料理酒 10g・醤油 8g・ゴマ油2g・小麦粉 適量・揚げ油 〈作り方〉
- 1.人参、キャベツはみじん切りにして軽く塩もみしてしぼる。ニラ、にんにくもみじん切りにする。
- 2.ひき肉にねばりがでるまで練り、Iと調味料を加えよくまぜて、ぎょうざの具のようにつくる。
- 3.なすは縦半分にして切れ込みをいれて2の具をはさみ、小麦粉をつけて 170℃で色よく揚げる。

Bowa Sumîre

編集後記

風に秋を感じる日もありますが、まだま だ暑い日が続いています、体調に気を付け て「スポーツ・読書・食欲」の秋を楽しみ ましょう♪ (松浦 綾子)



TEL: 042-797-6004(代) / FAX: 042-797-4824

E-mail: hananoie@poem.ocn.ne.jp https://bowasumire.ip/



理事長 田部井 眞

